

第5版はしがき

今回の改訂では、第4版刊行以降に行われた法令の制定改廃を反映させ、最新判例の追加を行うと共に、各章の冒頭にあるイントロダクションや囲み記事判例についても、リニューアルや差し替えを行っている。また、本書の随所で引用している行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（別冊ジュリスト211号・212号）が6年ぶりに改訂され、2012年10月と11月に相次いで第6版が刊行されたため、それに合わせて必要な修正を加えている。

本書の基本的考え方は、初版以来変わっていない。本書は、行政法をはじめて学ぶ学生や公務員試験を目指している人が、その全体像を概観できるように分かり易く解説したものであり、また、4名の共同執筆という本書の性格上、新たな行政法の体系を提示するというよりも、学説判例の現況をなるべく客観的に描写するように努めている。

本書では、初学者が学習しやすいようにいくつか工夫を凝らしているが、それは以下の4つにまとめることができる。

第1に、各章のはじめにイントロダクションを設け、比較的最近のトピックを素材にして各章の内容がおおよそ把握できるようにしている。

第2に、読者が一目でそのページの内容が掴めるように窓見出しを設け、また、学習の手助けになるように多くの図表を挿入している。

第3に、本文で詳しく触れることができない重要な事項については、コラムを設けそこで説明することにしていく。

第4に、行政法の授業では、教科書のほかに副読本として判例集を使用するのが一般的であるが、重要と思われる判例については、その概要を本書の中で解説することにしていく。また、判例は、基本的に公式の判例集ではなく、大学の講義や演習で最もよく使われ、一般の書店でも入手可能な、宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（別冊ジュリスト）、芝地義一編『判例行政法入門』（有斐閣）および毎年度刊行される『重要判例解説』（ジュリ

スト臨時増刊) から引用することになっている。

このような本書のコンセプトや特色が、多くの読者に受け入れられ、行政法に少しでも興味を抱いていただければ幸甚である。

最後に、第5版の刊行にあたって、法律文化社編集部の舟木和久氏に、また、判例索引や事項索引について、同志社大学法学研究科博士課程の近藤卓也さんと森田崇雄さんに、大変お世話になった。この場をかりて謝意を表したい。

2014年4月

執筆者を代表して

佐藤英世